

こうふ町 議会だより



未来を託す中学生議会

12月定例会

- 一般質問2P~3P
- 行政調査4P~9P
- 委員会報告10P~11P
- 私のひと言12P~15P
-16P

議会のことをわかりやすくお伝えします

12月定例会

一般会計3,563万円増額

予算総額 34億3,878万円に

補正予算

一般会計

歳入の主な内容

●衛生費

西部広域行政管理組合負担金

541万円増額

リサイクルプラザに係る負担金。

●災害復旧費

2,438万円増額

町道、農道、林道、農地、河川の災害復旧費。

特別会計

歳出の主な内容

●簡易水道事業

689万円減額

工事費の精査による減額。

平成29年12月定例会は6日に召集され、会期を12日までの7日間と定めて開かれました。

今回の定例会には、平成29年度の一般会計補正予算と特別会計補正予算、条例改正など19議案が提出されました。

議会ではこれらについて慎重に審議した結果、いずれも原案とあり可決しました。

7日の本会議では6名の議員が一般質問に立ち、活発な議論を展開しました。



今後が注目される奥大山スキー場



色々な意見が出された中学生議会

条例

全員協議会

▼議員報酬に関する条例の一部改正

▼特別職職員の給与に関する条例の一部改正

人事院勧告により期末手当を0.05月引上げ年間3.3月とするもの。

▼職員の給与に関する条例の一部改正

人事院勧告により平均給与を約0.2%引上げ勤労手当を0.1月引上げ年間期末手当合計4.4月とするもの。

庁舎特別委員会

庁舎建設について現在の大まかな形が示された。今後敷地に対してどんな形状にするのか、議会関連施設も含めた検討を行う事とした。

▼これからの小・中学校の在り方について

平成32年度には小学生87名、中学生45名となる現状を受け、教育委員会から小中一貫の「義務教育学校」を設置に向けてのことについて説明があった。

▼役場業務見直しについて

役場が行っている業務について230項目にわたり調査対象として今回、特に住民と係わりのある10項目について説明があった。今後住民説明会を開き、その結果を受けて議会と協議することとした。

▼奥大山スキー場について

指定管理にだせば年間平均950万円を10年間支払う条件にし、指定管理者の再募集を行ったが残念ながら応募はなかった。今シーズンには町が運営するが今後どうするのか、議論していく事とした。

中学生議会

昨年引き続き11月15日本会議場において6名の代表による一般質問がなされた。内容態度とも立派なものであり感服しました。

陳情の結果

件名

せせらぎ公園施設整備についての陳情
提出者 老人クラブ連合会
会長 三輪 貴憲

審査結果

趣旨採択とする。

理由

藤棚下の休憩所と水洗トイレとも設置すべきであるが、トイレについては内容・予算等検討すべきと考える。

町政ここを問う

一般質問

一般質問は6人の議員が行い、町長の方針をたじした



上原 二郎

役場の人員計画

問	人員適正化計画は
答	必ず実施したい

質問 庁舎建設は、平成30年度には基本設計を策定することになっている。現在、旧中学校跡地に鉄筋3階建て2,500㎡で建設費は約10億8千万円としている。庁舎の面積は、現在の職員数と組織を基に計算したものです。私は、庁舎建設というこの絶好の機会をとらえ、役場組織の将来計画をぜひ行うべきと考えている。

職員数は、平成16年77人でしたが平成21年には66人となりその後増加し平成29年は75人

となつている。是非この大きな機会をとらえ、将来の各課の在り方と適正な人員数を計画すべきと考える。又、その計画を庁舎設計に活かすべきと考えていますが見解を伺う。



旧中学校 庁舎建設予定地

町長答弁

役場の組織、各課の在り方・適正人員を計画した後には庁舎の設計にかかるとは最善とは認識してはいますが時間的に難しいと考えており、現在の人員で設計を考えたい。

人員計画については現在業務見直しを行つておりこの作業を踏まえ整理し適正な人員を考えていきたい。役場内部の生産性を高めると同時に、行政でやるよりも外部に出した方が良いものについては外部に出して行き、その中で適正人員について考えて行きたい。これは必ずや行って行きたいと考えている。

問	ハローワークとえんトリーは
答	出来るところから行う

質問 新聞に載った「県立ハローワーク」は、一般のハローワークよりかなり効果があるという印象です。是非日野郡3町で協力し、日野振興センターにも「県立ハローワーク」を設置するよう要望すべきと考えますが町長の見解を伺う。

町長答弁 鳥取県商工労働部に問い合わせたところ現在は、米子に県立ハローワークが設置されている事と日野郡には根拠にハローワークがあるので、常設の県立

動画で一般質問

上原議員の一般質問は動画サイトyoutubeでご覧いただけます。

ハローワークは考えていないが、出張ハローワークは可能この事です。まずは出張ハローワークを行い実績を積んで行き、利用が多ければ県も常設に向け動くのではと考えている。

質問

「とっとり出会いサポートセンター」通称「えんトリー」の米子ファミリアプラザにある事務所に聞きましたが、現在の登録者は678名でその内女性の登録数は約3分の1との事でした。この制度を色々な方法で、ぜひ多くの方に利用して頂くよう、情報発信をして頂きたいが町長の見解を伺う。

町長答弁

「えんトリー」の広報については、今年の7月に県がパンフレットを住民に対し回覧した程度であり、町として町報やホームページで紹介して行きたい。町としても結婚支援は重要と考えており「えんトリー」も含めどう取り組むか検討し進めて行きたい。

いま、求められる地域連携の重要性



江府町総合健康福祉センター



森田 哲也

動画で一般質問



森田議員の一般質問は動画サイトyoutubeでご覧いただけます。

問	答
保健・福祉・医療・介護の連携について	地域包括支援センターの充実を図る

質問 安心して暮らせる施設、安心して受けられる医療は町民の望むこと。家族の相互扶助の限界が言われる中、限られたスタッフ・職員状況では限界がある行政が率先した連携組織を構築していくことが必要と考えるが。

町長答弁 現状では、体制が十分でなく反省しているが、江尾診療所と地域包括支援センターを中心に連携を図るよう、来年度に向けて組織体制、人事体制を練り上げていく必要があると考えている。現在、第7期の介護保険事業計

問	答
地域連携を重視した柔軟な教育施策は	文化協会やスポーツ少年団等との連携支援を

質問 少子化が進む中、Uターンを意識した教育施策は重要と考える。先に行われた中学生議会では、中学生の視点の確かさ、高さにこれからの江府町の可能性を大きく感じた。本町が進めているこの地域を意識した教育方針は、今後を期待される教育方針と感ずる。そのためには、地域との連携

画を策定しているが、全ての高齢者の方が満足できる施設、介護される方、介護する側、両方が、住みやすいまちにするよう努力していく。

町長答弁 江府町の資源、人材を子供たちが理解し、地域の方を講師に地域の良さを教えてほしい。そして、将来の江府町に帰ってきて活躍する土壌を作っていく事業に取組んでいきたい。

教育長答弁 今後、地域と家庭との連携を強化し、文化協会など、より一層地域の人材素材を活用した教育活動を展開していきたい。少子化の中、部活動の選択肢を増やすのは難しいが、スポーツ少年団とのかわりの中、大会等にも出られるような、支援の仕方を考えていきたい。

農業振興・町内道路の安心・安全 経費の節減



川端登志一

動画で一般質問



川端議員の一般質問は動画サイトyoutubeでご覧いただけます。

農業振興について

質問 町内の圃場団地は、完成後20〜40年経過している。その間に農業事情は大きく変わってきた。そのことに対応するために、農地中間管理機構を活用した地元負担のない農地の再整備を図っては、

町長答弁

地元から意思表示があれば直接出向いて事業説明行つ。

質問

水は人と農作物にとって必須と考えるが農業用水路の維持管理作業の軽減と水の確保について町長の所見を問う。

町長答弁

蓋をかけたり管渠の埋設について経済的支援をする「多面的機能支払制度」を活用して頂きたい。

質問

コメの生産調整が終わります。言い換えると自由競争が始まるということですか。30年度以降の農業政策と展望を早急に発表説明すべきではないか。

町長答弁

農業再生協議会で方向性を協議次第、関係町民に説明行つ。

質問

町内農家も参加した宮城全共で県勢が大躍進した。この機会

をとらえて和牛の増産、飼育農家の拡大を積極的に啓発、支援すべきでは。

町長答弁

意欲的農家があれば支援の選択肢など検討する機会設ける。

町内公共施設の経費節減について

質問 10年前20年前に比べ物価や金利が大きく変動している。土地・建物・事業の「見直し」「し直し」「借り直し」のスピード

町長答弁

30年度より四半期ごとにテーマを絞ったパトロールを実施する。

質問

地域性や地理的条件を考慮した除雪作業への支援は。

町長答弁

具体的な話を聞いた上で対応を検討する。

町内道路の安心・安全について

町長答弁 現在230項目程度行っている。今後もう少し見直しを続ける。

質問

前回答弁では、危険個所の通報は住民の声を優先するとあったが、あわせて管理者としての絞った巡視体制を敷くべきではないか。

町長答弁

何らかの形の事業体が運営主体として指定管理する事が望ましい。

質問

若者のパワーとアイデアが実を結びよきな活用策を望む。

町長答弁

外国からの訪問者、若者たちが農業の手伝いに来ている。町民との交流も生まれつつあり、開かれた施設利用の可能性も見え始めてきている。



安心・安全な生活道路は必須

高齢者頼りの農業・今後の対策



阿部 朝親

動画で一般質問



阿部議員の一般質問は動画サイトyoutubeでご覧いただけます。

問
農業対策について

答
新規就農者対策・集落営農が重要

質問 現在の江府町の農業は、70歳、80歳の方々によって守られており、町長も十分承知のことと思います。

今後も就農者は減少し、耕作放棄地は増加すると考える。本年6月議会で町長は、新規就農者確立・育成が重要と答弁されているが、その後の進捗状況、それに伴う対策等について町長の考えを伺いたい。また、農業従事者の高齢化、就農者の減

少に伴い水田管理が不可能となりつつある。前町長は、農作業委託について農業公社、公社で出来ない部分は地域振興(株)で行わせる旨の議会答弁をされているが、これらを含め今後の水田農業について、町長の考えを伺う。

町長答弁

新規就農者対策は、担当課長から答弁させるが、厳しい状況である。私見であるが、本町に農業をやりたい人達に農業を教える体制づくり、その様なアイデアを出せる等、自由に意見交換ができる場を作り、策を練っていきたくと考えている。水田農業については、

地域振興での取り組みは、安直にそこに向かつてよいかと、何でもかんでも町あるいは町関連施設に押しやっつけてしまふ考え方には賛成できない。早いうちに農業再生会議で協議したいと考える。

課長答弁

新規就農者対策には、平成26年に1件、27年に7件、28年に5件の相談があるが、新規就農者は無い。今後確保育成していきたいが、町独自の新規就農者教育は出来ないのので、県実施の研修等を活用し対応していく。

質問

高齢者が多くなくなり、出役等にも事欠く集落も多く、耕作放棄地が発生することは明らかであり、地域で守る所と、そうでない所はすみ分けしていく必要があると考えるが、考えを伺う。

町長答弁

耕作放棄地の防止は非常に大事である。農業委員の方々も放棄地を出さない様日々努力をしておられる。行政としては、集落営農を推し進めているが、協力されない方もあるわけで、その辺話し合いをして地域で固めていくことが大事である

考える。集落で耕作放棄地を出さない様にする事が先決である。

質問 集落営農は必要と考えるが、集落営農組織を作っても後継者がいなければ、作っても仕方が無いとの考えもあり、その点も含め今後行政でも検討をお願いし、質問を終わる。



高齢者の目立つ水路点検清掃作業

地域資源と地域活性化の絆



三輪 英男

動画で一般質問



三輪議員の一般質問は動画サイトyoutubeでご覧いただけます。

問	地域コミュニティの再構築は
答	集落単位の構成ならば可能か

質問 人口減少・高齢化の現状において、地域コミュニティの再構築は喫緊の課題と捉えております。行政と一体化した整備が必要と思うが、町長のご所見を伺う。

町長答弁

小学校単位ぐらいでまとめてやるようなことはできないかなと考えてみました。しかし、江府町の場合は長い歴史の中で、やはり各集落に公民館をつ

くるという施策の中で推し進めてこられた繋がりが強くあり、集落単位等の規模であれば協議しながら進めていけると思います。

問	地域資源を活かした活性化を
答	人が人を呼ぶと流れを変えられる

質問 人口減少や高齢化が進行する中、農業・農村の価値が再認識されて「田園回帰」の流れが生まれつつある。地域資源を活用し住民自ら地域活性化の動きがみられるが町長のご所見を伺う。

私は実は今、ブログをしていまして「人が人を呼ぶ」というタイトルです。やはり人がいて、その人に引かれて人がやってくる。例えば、農業つてえらいで、大変だで、みだいな話ばかりしては人口は増えない。今やっていることが意味があつて核になれる人がいれば流れが作れると思う。

町長答弁

私は実は今、ブログをしていまして「人が人を呼ぶ」というタイトルです。やはり人がいて、その人に引かれて人がやってくる。例えば、農業つてえらいで、大変だで、みだいな話ばかりしては人口は増えない。今やっていることが意味があつて核になれる人がいれば流れが作れると思う。

問	人材育成奨学金支援制度について
答	前向きに検討中

質問 鳥取県では、若い皆さんに鳥取県で活躍してもらうため産業界と協力して、「全国初」の奨学金返還助成を行っています。江府町の奨学金返還助成制度の導入について、町長のご所見を伺う。

町長答弁 江府町で育った子供たちが、将来江府町に帰ってこようための動機づけの一つとして江府町に定住すれば奨学金のローン返済を町が補填するというような事業を今、検討しているところです。

問	再生可能エネルギーの活用は
答	バイオマス発電施設は厳しい

質問 再生可能エネルギーの導入と併せて、地域の農林業の健全な発展に資する取組を促進することが肝要と思うが、町長のご所見を伺う。

町長答弁 バイオマスは木質と、家畜の糞尿ですが、環境に優しいということです。発電となりますと、町内に建設は、採算面から考えて、困難であります。



町長と語る会(下安井)

農業振興のための農業公社の役割は



空場 語

動画で一般質問



空場議員の一般質問は動画サイトyoutubeでご覧いただけます。

問	農業振興について
答	集落営農の推進から

質問 自然豊かな江府町は、農業が産業の中心の町です。美味しい米「コシヒカリ」「きぬむすめ」は全国レベルの品質を持った米であることが実証されています。この農業をどう守って発展させていくかは、農業公社の役割が重要ではないかと考えます。将来に向けた農業政策を考えて農業公社の在り方を再検討すべきでは。

町長答弁

農業公社は、当面は集落営農ができない集落への対応をする事が主なことと考えています。集落営農を推進していき、農業公社の在り方を再検討してみたいと考えています。

質問 農業団体、再生機構や農協、行政、集落営農等のプロの組織も入れて、町全体で考える組織を早急に作るべきでは。

町長答弁 全体的な合意形成ができる組織を目指して話し合いをやりたいと考えています。

問	未来の町づくりは人材育成
答	機会をつくらせて話したい

質問 中学生議会を見て、町の事をよく見て発言していることに感心致しました。

若者は世の中を新しくする希望そのもので、若者の意見を聞かずに将来は語れません。

中学生だけでなく、高校・大学生の若者と町の未来を話し合う機会を持つべきでは。

町長答弁

機会を作つて若者と未来を話してみたいと思います。

問	庁舎関連施設はコンパクトに
答	町報で示したとおり

質問 人口は20年先に1,800人、30年先には1,000人余りのは



せせらぎ公園

町になると予測されます。住民も江尾、佐川地区と神奈川地区に集まりその他は小集落が点在するコンパクトな町になります。人口の集まる銀行や郵便局、診療所があるところコンパクトに建てたらどうか。庁舎整備基本計画には建設費は10億とあるが総事業費かどうか。できれば、総事業費で10億までとされたい。

町長答弁

町報で示した通り、旧中学校跡地に庁舎整備基本構想を示して、

問	せせらぎ公園の整備を
答	早急に点検して対処します

住民説明会で意見を聞き、議会に提案した方向で建設費10億で建設したいと考えています。

質問 江府町で一番素晴らしい公園が老朽化で危険な箇所がたくさんあります。安心して町民が憩える場所とは言えません。早急に整備をされたい。

町長答弁

せせらぎ公園の老朽化については、危ないところは現地を点検して早急に対応していきます。

地方行政調査報告

平成29年9月28日～30日

定例会

一般質問

行政調査

総務経済

教育民生

秋田県 阿仁スキー場

指定管理によるスキー場運営の取り組みについて

阿仁スキー場の概要

秋田県でも青森に近い北秋田に位置し、昭和62年に国土計画株式会社により開業。開業当初「森吉山」という一つの山に森吉スキー場・阿仁スキー場2つのスキー場が建設され、開発が進むと連結された大きなスキー場になる計画だった。その後、森吉スキー場の閉鎖、運営会社の変更を経て平成23年に、北秋田市々営になっていったスキー場を、北秋田市の商工会メンバーが中心となり設立されたNPO法人「森吉山」が市から指定管理を受けてスキー場を運営し今年で7年目になる。



全長3.5kmの阿仁スキー場ゴンドラリフト

考察 奥大山スキー場の今後の運営について

今回視察した阿仁スキー場は、美しいブナ林と巨大な樹氷群に囲まれ豊富な雪量とパウダースノーが自慢のスキー場であり、全長3,478mのゴンドラリフトの他に3本のリフトを備えた素晴らしいスキー場である。江府町との決定的違いはその規模と3〜4mという積雪と12月初めから雪が積もり、5月の連休明けまで雪が残ると言う日本でも屈指の豪雪地帯であり、スキー場経営の観点から、圧倒的に有利な条件下にあり、常に雪の心配をしなくてはならない当町から見ればうらやましい限りである。

平成23年からNPO法人森吉山が北秋田市から管理委託を受け、6月か

ら4月末までほぼ年間を通して様々な営業展開を実施している。

平成28年度来場者数は約5万3千人であった。その結果、北秋田市からの指定管理料1,570万円を受けながらなんと435万円の剰余金を計上することが出来た。

NPO法人森吉山の経営努力、頑張りには並々ならぬものを感じた。

本町において現在計画されている奥大山スキー場の第一リフトの更新、そしてエバーランドを含めた指定管理委託募集計画については、このたびの研修地の状況を参考に慎重かつ確実に進める必要があると強く感じた。

秋田八峰町 庁舎建設

庁舎建設の概要

八峰町は秋田県最北端に位置し青森県に接する人口7,384人の町です。

合併後10年間は退職



木造2階建 八峰町役場庁舎

者5名につき1名を採用、その後は退職者2名につき1名採用を基本として、平成18年度当初の総職員147名を平成28年度までの10年間で41名削減し、総職員を106名とする人員適正化計画を策定。

平成29年4月1日現在で総職員106名・臨時職員106名・庁内在籍職員は71名・庁内臨時職員は34名となっております。新庁舎建設に向けて職員体制をしつかりと構築しながら適正化を図っている。

八峰町では当初建物本体延べ床面積2,500㎡で8億円の建設予定でしたが、人口と職員数は減っていくと、将来を見据えたコンパクトな庁舎にすることとし、延べ床面積2,000㎡建設費5億円の設計としています。八峰町ではプロポーザルによる設計業者を募集し全国の設計業者8社により提案書が提出されています。その中から選定委員会による聞き取りを行い、その後選考が行われ業者が決定されています。またその後の詳細設計に際し設計業者との詰めの話し合いが行われています。

ザルによる設計業者を募集し全国の設計業者8社により提案書が提出されています。その中から選定委員会による聞き取りを行い、その後選考が行われ業者が決定されています。またその後の詳細設計に際し設計業者との詰めの話し合いが行われています。

住民説明会2回・プロポーザル6回を行い当初の提案であった延べ床面積2,755㎡・積算単価30万円/㎡・建物本体で約8億円、総工事費約11億円を、最終的に延べ床面積2,000㎡以下、積算単価25万円/㎡・建物本体で5億円・総工事費8億円とした。

①親しみやすさに配慮し、町民に愛される庁舎とする。

庁舎建設の基本方針は

①親しみやすさに配慮し、町民に愛される庁舎とする。

考察

旧庁舎が不幸な火災によって焼失したため、八峰町の新庁舎は諸条件を前倒し町民の安心・安全のため早急に庁舎建設が行われた。実際の建設に当たっては、庁舎に必要な機能を精査し、整備するものと省略するものとをきちんと検討している。また、経費削減の方向性を明確にし、新たな視点で効率性の高い設計を立ち上げておられる。

特に、設計に関しては、プロポーザルによって設計業者を選定しており、透明度の高い設定基準を選択しておられる。

今後、江府町の庁舎建設が行われる際に、大いに参考になる面があり活かして頂きたい。

常任委員会

調査日 平成29年10月25日

所管事務調査報告書

三町衛生施設組合
汚泥再生処理センター
「清化園」建設工事

○工期

「着工」

平成27年6月8日

「竣工」

平成29年11月30日

【考察】

旧施設より格段に優れたものとなっている。臭気はほとんどなく、全てコン



新しくなった「清化園」

ピューター管理と
なっている。当施設
の特徴であるリンの
回収については貴重
な農業資源となりう
るものでありその有
効活用が期待される。

町道久連洲河崎線
道路災害復旧工事

○工期

平成29年7月11日～

平成30年2月28日

【考察】

現地でみると想像
以上に危険を感じる
難工事である。工程
は10月末時点で一か
月程度遅延している。
原因は人力作業で行
われている岩掘削土
工に大変手間取って
いるためである。適
切な工法をしっかりと
と検証し安全第一に
適正な工期を検討さ
れたい。

索道事業
(奥大山スキー場)

○営業概要

営業日数 72日

輸送人員 14万

全体収入 4,600万円

【考察】

現在時点において
30年度より指定管理
者の状況が定かでない
ので、町単独での
経営となれば、過去の
のマーケティングを
深く検討して短期で
の黒字化に努めなけ
ればならない。広告
宣伝費の投資額にお
いても検討され、入
込客の70%が岡山県
からの利用者である
ことに對する十分な配
慮が肝要と考えられる。

奥大山農業公社

○事業状況

正規職員2名、嘱
託職員1名、臨時職
員1名、地域おこし
協力隊2名で事業を
実施している。

そば大豆の刈取り
は本年度汎用コンバ
インを購入し適期の
刈取りで収量増を目
指している。一昨年
からの果樹事業(新
甘泉)については苗
木も順調に生育し、
来年秋の収穫を目指
している。

○事業実績

☆農作業等受託事業

水稲を中心に、そ
ば、大豆、牧草、そ
の他の作業を実施し
ている。売上は、約
1,500万円を見込
んでいる。

☆農業経営事業収入

農地の借り入れに
より、水稲を栽培し
農業経営を行い耕作
放棄地の発正防止と
農地の有効利用を
図っている。今期米
の売上は約250万
円を見込んでいる。

☆果樹事業

一昨年度より
「梨・新甘泉」13a
の栽培に取り組んで
いる。

【考察】

組織の再構築を早

急に進め専属オペ
レーター確保育成
に努められたい。
新甘泉栽培の事業
については、後継管
理者の選定を検討し
事業管理が中断しな
いように、早期に計
画立案されたい。

道の駅奥大山

【考察】

平成28年度は物産館
マルシェと直売所みち
くさ館の両方において、
客数が前年対比93・
8%であった。今後に
ついては各種イベント
が計画されており、そ
の集客効果に期待する
ところであるが、当初
計画の売上を実現する
ために早急に経営戦略
コンセプトを定め、
「奥大山・天の虫」等
のキーワードをさら
に活用し、江府町の
特色を生かした商品
開発と品揃えに工夫
を凝らし来店者の増
大とサービスの向上
に努められたい。

総務経済

調査日 平成29年11月20日～21日

地方行政調査報告書

調査場所 広島県安芸太田町

移住・定住の支援

◎中小企業支援策基本方針の主な施策

- ① 新分野進出、新商品、新サービス開発への支援
- ② 地域資源の活用（再生可能エネルギー産業・6次化産業の推進）
- ③ 起業化・空き家店舗活用支援
- ④ 円滑な事業継承の促進
- ⑤ 人材育成（ＩＴビジネス講座・研修会の開催）

◎補助金

用途に応じて5万円～200万円まで限度。

◎実績

平成26年度交付決定額 13,285千円
 平成27年度交付決定額 21,634千円
 平成28年度交付決定額 9,443千円

◎移住・定住する方を支援する7つの制度

- ① 高速道路通勤費補助金制度
- ② 定住促進奨励制度
- ③ 持ち家バンク制度
- ④ 空き家確保支援事業報奨金支給制度（平成23年度より）
- ⑤ 定住促進空き家活用制度（平成22年度より）
- ⑥ Uターン世帯定住心援制度（平成25年度～）
- ⑦ 子育て世帯定住心援制度（平成25年度～）

◎定住促進団地

☆平成25年度より分譲開始
 ☆JRR可部線跡地を活用
 ☆区画数・5区画
 ☆区画面積・3300㎡
 ☆分譲単価・3mあたり16,500円

スキー場について

◎恐羅漢スノーパークについて

- ① 広島県の最高峰、恐羅漢山に広がるスノーパーク
- ② 最長滑走距離2キロメートル、標高差420
- ③ 西日本では珍しい樹氷を山頂付近でみられる。
- ④ 駐車場1,700台無料
- ⑤ レストラン・民宿

◎経営状況

すべて自己資金で運営している。町からの補助はないが、固定資産税の減免が少しある。平成28年度の売上は約2億円で、そのうち夏シーズンが2,000万円でした。目標の5,000万円に向けて鋭意努力中です。

◎課題

- ・リフトの更新時期が来ている
- ・宿泊客の減少

【考察】

- ・優良スタッフの確保
- ・通年営業の強化

以上のように安芸太田町では移住・定住あるいは地場産業の振興に多種多様な支援事業を施されています。移住には当然手厚く支援をしますが、すでに居住されている住民や地場業者にもリンクした支援策は当町にも有効な事例と思われる。

恐羅漢スノーパークについては、昭和38年の豪雪を機に地元集落の人口流失が始まり対応策として、商工会が音頭を取り10名の発起人でスタートした。

平成17年には入場者数は17万人を数えたが現在では4万人台である。ピーク時には90名のスタッフで運営したが現在は12名である。

本町においても現在計画されているリフトの更新、指定管理者についても参考になると感じた。



安芸太田町役場にて

定例会

一般質問

行政調査

総務経済

教育民生

常任委員会

調査日 平成29年10月23日～24日

所管事務調査報告書

子供の国保育園



子供の国保育園

今後の児童数の予測

平成29年度は町内児童数108名で園児数82名で（広域入所2名）である。

【考察】
建物の老朽化や駐車場が手狭になってきた等を考慮すると、移転を検討されたい。

社会福祉協議会

地域福祉活動推進のための啓発活動をはじめ5カ年計画で8つの事業を展開しているが現在、様々な問題が提起された。

- ① 地域福祉計画が未策定である。そのため社協が担う役割が明確になっていない。
- ② 包括支援センターが十分機能していない。
- ③ 様々な会議が開催されているが、会議で出た課題処理も遅い。
- ④ 業務多忙を理由に対応が遅い。

【考察】

この度、社協より提起された問題点に対し、行政当局に於いてよく検討され地域包括支援センターの充実と業務改善を求める。そして各福祉施設に対し、指導的立場にあることをしっかりと認識されることを望む。

社会福祉法人 尚仁福祉会

① 経営理念
入所者と家族の為、現場で働く従業員の為、そのために経営を安定する事。

② 障害福祉事業B型
定員20名・現在就業者8名（内町内7名、日野町1名）「いいこのニーズが減少してきたため、来年からは介護予防の施設に変更予定。

③ 問題点
・江美の郷及びあやめの介護職員、看護師が不足している。

・あやめの空調設備の定期メンテが出来ていなかった。
・リフト車のワイヤーが切れている。
【考察】
町内にはまだ多数の障がい者がおられます。更なる受け入れを望む。

「いこいの広場 らんちゅう」

① 受け入れ態勢・条件
・地域密着型通所介護対象者 江府町民・他の地域住民
・定員18名/日

② 利用者の状況（累計）
平成28年度 3,539名
平成29年度 5,000名

③ 介護予防事業延べ人数
（毎週水曜日）
平成28年度 5,000名
※脳トレの効果により介護度が進行していないがこの事業を平成26年11月から町から委託されて以来、利用者は30名にとどまっている。

【考察】

総合事業の重要な柱である予防事業がまだ一部の利用者にとどまっているのは問題である。

江府小学校

平成29年度児童数84名
【考察】
プール更衣室については悪臭対策等経

江府中学校

費で改修できないか検討の余地がある。又、児童の家庭では洋式トイレが一般的になっており洋式化については引き続き検討されたい。

今後の生徒数の推移

平成29年度の生徒数は70名であるが平成32年度は46名と大幅な減少が予測される。

【考察】

今回、電子黒板を使った授業を見学したが、その効果が十分に期待される。

江尾診療所

江尾診療所活動の基
本方針

- ① 生活習慣病
- ② がんの早期発見
- ③ 在宅医療
- ④ かかりつけ医
- ⑤ 学生教育、後輩育成

【考察】

福祉、保健、医療の連携を高めるためにはケアマネージャーの存在が鍵になると思われる。そして、地域包括支援センターの人材確保を望みます。

教育民生

調査日 平成29年11月28日～29日

地方行政調査報告書

徳島県 神山町

町の概要

神山町は徳島県東部に位置し徳島市に隣接、昭和30年に5村が合併し現在に至る。平成に合併を検討したが単独行政を

選択、主要産業は農業、林業で特産品は「すだち」が特に有名である。

人口5,577人、高齢化率49.4%の町である。



古民家を活用したオフィス

将来の人口推計

活発な町民活動、地域活動を主軸に新たな交流や事業創出による地域経済基盤と生活基盤の強化を図ることで定住環境の向上につなげ、移住者の増加と少子化・高齢化の抑制を目指す。

平成32年目標人口 4,900人

(推計人口+200人)

内年少+100人生産年齢人口+100人

観光

四季の変化に富んだ自然を生かし、町を盛り上げる。地域住民やNPO法人などの団体を支援しながら、交流人口の増加を目指す。

サテライトオフィスの概要

移住交流

サテライトオフィスは現在神山町に16社が開設しており、第

一号は、平成22年に古民家を改修して開設されたIT関連企業である。以来、パン屋、ピザ屋、カフェ等の店舗や文化芸術部門など多種多様な職種が移住してきている。特に閉鎖された元縫製工場を改修したワーキングスペースは利用料を払えば小さいスペースを利用して仕事ができ、その中には県庁の出先機関や地元銀行も入居している。それらサテライトオフィスの誘致活動の中心になったのが行政ではなく平成16年に開設されたNPO法人グリーンバレーである。

【考察】

現在、神山町では「神山プロジェクト」という産官学民の協働によるクリエイティブな町づくりが進められている。

町の将来にとって必要な働き手や起業家の誘致、IT、映像、デザインなど場所を選ばない企業の誘致、厚生労働省の基金訓練・求職者支援訓練による後継人材の育成。

これらの活動はNPO法人グリーンバレーが主体的に動いている。そして行政は後追いで補助金などの支援を行っている印象である。それも町を飛び越して県が窓口になっていると云う。いずれにしても神山町は移住定住、空き家対策に多額の補助金を支出している。

「江府町3,000人の楽しい町」づくりを考察するに於いて発想の転換が必要である。補助金支出の方法も再検討する必要があると思われる。

私のひと言



町老ク連 三輪 貴憲

高齢者の生きがいと健康

明徳学園や老人クラブで活動する皆さんの様子を見てみると、講演を聞いたり、趣味の講座や活動を通して仲間との交流をとっても楽しんでおられます。活動の日は腰や膝が痛くても意欲的に出かけ、身体を動かしておられます。身体をだましましでも使い続けていると、体力をつけることも出来ます。

一方、腰や膝が痛いからと言って家にこもって大事にしてしまうと、一向に良くなるはず、医者に行ってみるものの、『薬の効果はその時だけ』という話もよく聞きます。

この両者の違いは何でしょう。それはいかに意欲をもって生きていくかだと思います。前向きに何かをやるうとする意欲が身体を動かし、動き回ることによって体力をつけ、身体に

機能を維持・向上させるからです。

高齢者が健康に暮らし家庭や地域社会に貢献できればこれほど素晴らしいことはありません。医療や介護にかかる費用が大幅に減少するとともに地域社会の活力になるからです。町内に門松が沢山作られているとの情報を聞きます。これ一つをとってみても高齢者のパワーを感じ、門松の華やかさが見る者の活力を呼び起こします。

江府町当局や議会議員の皆さんにこのことの重要性を理解していただき、元気な高齢者が大幅に増加するような施策を希望するところです。

町民みんなで良い方法を考えていきましょう。高齢者の仲間入りをする60歳はまだまだ現役で将来、後期高齢者に、そして80歳、90歳と年を重ねていくことを想像できない人も多いことでしょう。しかし、体力に余力のあるうちに体力がなくなってくる際の準備が必要なのです。共通の趣味や関心を持ち、信頼をもって付き合うことができる仲間と繋がっておくことが大切です。体力が無くなつてから活動を始めるのはかなり困難があります。5年先、10年先のびのび活躍している自分の姿を想像し、そのためには、今どう生活するかが大切だと思えます。

温かい江府町の人々



洲河崎 浦部 雪乃

結婚して江府町に嫁に来て3年が経とうとしています。育休を終え、昨年の1月からJA鳥取西部江府支所でお世話になっていきます。私が日々仕事をする中で感じていたことは、江府町の人々の温かさです。以前他の支所で働いていた時はあまり感じなかったのですが、江府町の方は家にながらせてくれて、コーヒーやお茶、お菓子をくださったり、良くお話をしてくださったり、とても温かい人が多い町だなあという印象を持つようになり、飲み過ぎでトイレの回数が・・・。

また、私には2歳になる子供がいるのですが、主人の実家でおばあさんと大きいおばあさんの3世代で子育てをしています。職場でも融通を利かせてもらい早く帰ることが出来たり、近所の方も声を掛けてくださり、本当にたくさんの方に世話になってのびのびと子育てをさせてもらっています。

江府町は子供も数が多いので、子供の同級生も15人くらいですが、人数が少ない分、みんな大切に育てようという気持ち強いのもかもしれません。今後も変わらず、温かい人の多い江府町であって欲しいなと思います。



昨年6月には町議会議員の選挙が行われました。そして新人議員が4名誕生したことから、議会に新たな風が吹き込まれました。新庁舎建設、奥大山スキー場の今後の運営についても議員一人ひとりが知恵を出し合い議論を深め進めているところです。

今年も「議会だより」を通して住民の皆様様々な情報提供ができるよう頑張つてまいりますのでよろしくお願致します。

三好晋也

広報公聴常任委員会

- 委員長 上原 二郎
- 副委員長 三輪 英男
- 委員 三好 晋也
- 川端登志一
- 森田 哲也

